

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
65	川崎市立上作延小学校	栃木 彰子

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>かしこく・やさしく・たくましい子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標に向かって、自ら考え、挑戦しようとする子 ・自分の思いや考えをのびのびと表現する子 ・自分も人も大切に、共に考え課題解決に向かって行動する子 ・困難なことがあってもあきらめず、粘り強く取り組む子 	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力の育成 ○豊かな心とたくましい実践力の育成 ○健康・体力の増進と安全・安心な学校生活作り ○地域に根ざした特色ある学校づくり ○教職員の指導力向上 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしい話し方、あたたかな聴き方をしよう ・よいと思ったことを実行しよう </div>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで取り組んできた「豊かな言語環境」づくりについて、改善を加えながら継承し、教育活動に生かせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年スペースや掲示版を中心に、常に学習の様子や成果が見える化され、学校全体で共有できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な形で継続していけるようにする。
2	豊かな心とたくましい実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内交流、異学年交流、外部の方々との交流等、幅広く交流し、多様な人やもの、事との出会いを積極的に設け、実体験を通じた学びを推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の研究に取り組んだ。昨年度まで国語の研究で取り組んできた「伝える力」をもとに対話的に学べるよう授業展開を設定し、数学的な考え方の育成を促すことに試みた。考えて解決する価値のある課題づくりを模索した。協働して学ぶ姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を重ねながら思考力を高める授業力を追究する。・カリキュラムマネジメントと共に確かな学力を検討する部会を設置し、獲得のための教育活動、(カリキュラムマネジメント、宿題、業者テスト利用など)従来型の学習のあり方を見直したい。
3	豊かな心とたくましい実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想ステップ3を意識し、個別最適な学びと協働的な学びに向けてICT機器の有効活用を努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員でSTUDYdxの研修を受け、授業や校務でGIGA端末をどう活用していくのかを学び、実場面での活用の幅を広げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の必要感に応じた使い方ができるようにしていく。有効活用できた単元例をカリキュラムに残していく。GIGA推進研究校として研究を推進する。
4	豊かな心とたくましい実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童、登校渋りの児童、大人数が苦手な児童などに対して、少人数教室を設置し、担任やCOが中心になって関わりを深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人やもの、事との出会いを通じて、見方・考え方を広げることができた。自分の役割や社会とのつながりを感じられる取組ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域をはじめ外部とのつながりを大切にしてい。また新しく開拓に努める。実物、本物との出会い、体験活動を重視した活動を行っていく。
5	豊かな心とたくましい実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年行事においては、児童の思いや発想を大切に、児童主体の活動を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに児童の思いを生かした内容や形式、児童自身の言葉を大切に、学年ごとに学習発表会を行った。児童主体の探究・表現活動となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童の登校頻度や学習意欲が改善した。年度途中、少人数教室を利用しながら、自己調整をする児童もあったが、復調し学級にもどるなど、一時的な措置にも有効だった。
6	豊かな心とたくましい実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導で挨拶や時間、約束などを意識できるよう声かけをした。きらきらタイムの実施、体力向上集会等を行った。養護教諭、学校栄養職員による保健指導、食育を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことでどのような力が身に付いてきたのかを価値づけ、児童自身が捉えられるようにする。自主的な行動の楽しさや豊かさを味わえるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の場面でなく、常に、「聴く」「話す・伝える」を大切に指導する。学習や人間関係づくりにおいても価値が感じられるようにする。
7	健全な心身の育成と安全安心な学校生活づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や防犯訓練について、より実践的な内容となるよう改善した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴くとはどういう態度で、何を大切にするのか、言うや伝えるの違いは何か、など、具体的な場面を通して全体で指導をすることができた。「聴く」「伝える」意識と力が身に付いてきた。教員にとっても、指導の在り方を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の保健室利用数は、一昨年と比較して減ったが、学校内での怪我について、大きなけがや事故につながるものがなかった。児童、職員とも、より意識していくこと、正しい知識を持つことが必要である。
8	健全な心身の育成と安全安心な学校生活づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育推進校として実効性のある訓練を計画し実践した。放送が使えないことを想定した訓練や1分ほどの授業時間に影響をしないシェイクアウト訓練を繰り返し行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時間が安定し、用務員をはじめ職員の協力もあり、その間の安全管理もしっかりできた。児童も挨拶の大切さについて認識し、全校児童による挨拶運動を行うことができた。 ・学校安全委員会を開催し、保護者、学校、地域、学校医と児童の健康について情報を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より実践的な内容となるよう、改善していく。安全マニュアルの見直しを行う。
9	健全な心身の育成と安全安心な学校生活づくり			

10	地域に根ざした特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 文書のDX化を行った。毎月の便りを学校・学年だよりとし、HPにアップすると同時に学年のページの更新を行うことにした。 学校全体で共通している内容は、各学年から連絡するのではなく、学校だよりとして学校に通知するようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・学年だよりとすることで、担任の負担がかなり軽減され、HPの学年ページを充実することができた。 ペーパーレスにすることで経費削減、印刷配付の業務削減、保護者へ確実に伝えられるなどの効果があった。HPの容量の問題で、以前のを残せない不便さが残った。 学校からの文書については、メール配信で知らせ、リンクからすぐに読めるようにした。保護者はペーパーレスになってきたようで、返信の回収率があがってきている。 	人的資源も考慮しDX化による広報と参集の両方を組み合わせを積み重ね、理解と協力を得られるよう努める。より扱いやすい工夫をする。
11		<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流の再開、開発に努めた。市制100周年に向けての活動と関連させ、全学年が教育課程の中に組み込み学習を展開することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 町探検、老人会とのふれあいなど、地域の良さや魅力について調べ、多様な人や物、事とふれあい、考えたことを発信する、行動する学習を展開することができた。新たな可能性も発見することができた。学校の教育活動の意義や目的を理解していただくことができ、地域からもアイデアや提案をいただき、学習を広げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 関わった一部の人々だけでなく、さらに関わりを広げていく。発信からもう一歩、行動、実践を深めていきたい。 カリキュラムに位置づけ、学校の特色を明らかにしていく
12	教職員の指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 学校における課題をもとに、計画的に児童理解・支援、授業力向上、等について研修を行った。また、日頃の様子や行事などにおいて、時期的なことや活動内容を考慮し、研修や注意喚起、考える機会などをもつようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験の少ない教職員、業種の異なる職員、また教員免許をもっていない日本語指導の職員など、様々な職員がいるので、現代の教育の置かれている状況や、大切にすべき点等について共有できるよう努めた。全体で共通認識をもって指導や支援に当たることができた。理解不足、理解が実践につながらないこともあった。 	<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育GIGA活用など研修をしたが、捉え方や理解に差があったり、理解したことと現実が一致しない場合もあった。具体場面を捉え、粘り強く指導する。互いに声をかけ合える、注意し合えるような環境を整える努力をする。 教職員のウェルビーイングは、教育効率をあげるのに必要である。教職員の意欲や意識に関するアンケートをとり、学校運営に生かしたい。
11		<ul style="list-style-type: none"> 事務作業日の設定、休憩時間を確保する会議時間の設定、業務の精選を行い、本来の業務に専念できるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年だよりを学校だよりとセットにしたこと、保護者からの回答の集約をGIGA端末の共同作業で行うこと、等で業務の効率を上げることができた。時間を意識した会議の設定、進行により、時間の有効利用の意識が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントをさらに推進する。教科を関連させるだけでなく、学習を社会とつなげることや生涯にわたるものにしていくこと、その価値について考えられるような教育活動にしていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な姿、児童が創り上げる学習活動や行事、そこに向かう姿等について、目的意識や相手意識が明確であることに評価を得た。 学校の特色を生かした学校教育活動が行われていること、地域の魅力について児童が発信したことなどに関心が高かった。学習が地域や社会とつながる「キャリア教育」について理解を得られた。 放課後の校庭開放について、わくわくと意見交換を定期的に行った。児童がきまりを守って元気に遊んでいることを高く評価された。 GIGA端末を用いた学習の今後について質問をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な見方や考え方、立場の保護者や地域の方々の理解を得ながら学校教育活動を推進していくことを意識してきた。 学校説明会や報告会、行事、たより、学校教育推進会議等で「開かれた学校・風とおしのよい学校でありたい」といった意向を伝えるなど、説明の機会を大切にできた。今後も連携して学校運営を行っていく。 学校が中心に担うこと、家庭や地域が中心に担うことの区別が難しく、放課後の生活、家庭生活の問題に関して学校が関わらざるを得ないことがあった。保護者や地域の方々の立場を理解しつつ、子どもの幸福を第一に対応を進めていく。 指導力・支援力・児童理解力について課題が残る教員がいる。報・連・相が定着してきた。